



2019年度 南山大学人文学部 講演会のご案内

The *hatsuon* ん or the moraic nasal in three dialects of Japanese:

Kansai, Kanto and Kagoshima

関東, 関西, 鹿児島方言における撥音「ん」

講演者: Connor Youngberg 氏 (コナー・ヤンバーグ)

Université de Nantes & LLING (France)ポスドク研究員

日時: 2019年5月8日(水) 16:00-17:30

場所: 南山大学 Q棟 103 教室

対象者: 南山大学学生、教職員、他どなたでも **参加無料**

In this talk, I consider the nature of the *hatsuon*/撥音, or <N>. In the dialectology literature, the *hatsuon* N is considered to be a special mora (特殊モーラ). Generative work typically claims that it is a consonant. I revisit evidence from the Tōkyō and Owari dialects and consider another analysis, where the *hatsuon* is a vocalic mora. I then consider the Kansai and Kagoshima dialects, where N exhibits more consonantal characteristics. After discussing the phonological facts and revised views, I conclude with a discussion of ongoing phonetic studies.

本講演では、日本語の撥音「ん」の性質について考察する。伝統的な方言学においては、撥音は「特殊モーラ」として分析される。また、生成音韻論においては、子音として分析されるのが普通である。しかし、東京方言と尾張方言から得られたデータを再検討すると、これらの方言においては撥音を母音的なモーラとして分析可能であることが分かる。一方、関西方言や鹿児島方言では、撥音はより子音的な特徴を持っていると考えられる。以上のような撥音に関する音韻論的な事実と従来とは異なる見解について示した上で、最後に、今後進めるべき音声学的研究についても議論する。

その他: 講演は英語で行われるが、質疑応答は日英可能で、資料にもある程度和訳が準備される予定である。

事前の質問大歓迎です。以下アドレスまでお送りください。

問い合わせ先: 日本文化学科 岩崎(niwasaki@nanzan-u.ac.jp)まで